

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

廿日市市立阿品台西小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	65	79	77	80	83	85	469	30	499
学級数	2	3	3	3	3	3	17	4	21

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	A	推進	B	C	推進	専科	A	専科	A	A	A	A	B
5年2組 (担任：B)	A	推進	B	C	推進	専科	B	専科	B	B	B	B	B
5年3組 (担任：C)	A	推進	B	C	推進	専科	C	専科	C	C	C	C	B

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：D)	E	専科	F	D	推進	専科	D	専科	D	D	D	D	F
6年2組 (担任：E)	E	E	F	D	推進	専科	E	専科	E	E	E	E	F
6年3組 (担任：F)	E	専科	F	D	推進	専科	F	専科	F	F	F	F	F

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

① 授業の質の向上

- ・それぞれの学級の実態に合わせて指導方法を変えるなど、授業の質を高める取組

② 多面的な児童理解

- ・自分の学級だけでなく、授業を通して学年全体の児童について理解する。

③ 小・中学校の円滑な接続

- ・教科ごとに指導者が変わる体制作り

④ 教師の負担軽減

- ・一人の教師が指導する教科を減らし、空き時間を確保した。



<成果>

① 授業の質の向上

児童の実態に応じて、学級ごとに少しずつ指導方法を変えることがあっても、同じ教員が指導することで指導に一貫性が生まれ、学力向上に繋がった。また、1クラス目で行った授業内容を、2クラス目では改善することができ、3クラス目では改善したことを挑戦でき、授業の質の向上に繋がった。

② 多面的な児童理解

学年での児童理解が深まり、生徒指導上の問題を学年全体で取り組みやすくなった。

③ 小・中学校の円滑な接続

中学校の授業スタイルを体験でき、イメージしやすくなった。教科担任制が浸透し、教科ごとに担当者が変わることに対する抵抗がなくなっている。児童アンケートでも、「相談する先生が増えた」と答えた児童が、昨年度よりも6%向上していることから、児童にとってもよい影響が見られる。

④ 教師の負担軽減

一人の教師が教える教科が少なくなり、効率よく仕事を進めることに繋がった。

教材研究が1つあるいは2つの教科に絞られるため、教材研究に費やす時間が大幅に軽減するとともに、より詳しく研究することができた。

また、空き時間が増えることで、その時間を担任業務や校務分掌などに使うことができ、心にゆとりが生まれ、児童に向き合うことができた。

<課題>

② 多面的な児童理解

児童に指導するタイミングを失う。指導したいときに担任も授業があり、いいタイミングで指導することが難しい。

④ 教師の負担軽減

年度初めに時間割を組む教員の負担が大きい。専科のこと、体育館、運動場の割り振りなど多くのことに気を配りながら、何度も組み直す必要がある。教員によっては、空きが少ないなどばらつきが生じる。また、学校行事や祝日などにより、時数が不足する教科が生まれ、調整が難しいことが多々あった。



<対策>

② 多面的な児童理解

学年間で、児童に関する情報を共有することで、対応を共に考えることができた。また、生徒指導主事にも相談や報告し、組織的に対応策を決めることができた。



④ 教師の負担軽減

年度初めの時間割を組む作業を複数名で分担し、重複がないか確認しながら作業を進めることで、時間割を組むことができた。

また、祝日が多い月曜と、他の曜日を年に数回時間割を交換することで、時数不足を軽減することができた。